

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社GSユアサ 向日市独身寮	階数	地上6F
建設地	京都府向日市	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、法22条区域	平均居住人員	97人
地域区分	6地域	年間使用時間	46,720時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 0.0	評価の実施日	2016年1月29日
敷地面積	1,924 m <sup>2</sup>	作成者	橋本
建築面積	689 m <sup>2</sup>	確認日	2016年1月29日
延床面積	3,575 m <sup>2</sup>	確認者	橋本

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	81%
③上記+②以外の	81%
④上記+	81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	2.8
湿熱環境	3.0
光・視環境	3.1
空気質環境	4.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	2.9
耐用性	3.8
対応性	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	5.0
自然エネ	2.9
設備システ	4.3
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.0
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.7
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>・利用する社員には快適なプライベート空間を、管理者には集約された共用空間を、そして、周辺の住環境に溶け込んだ外部空間を計画した。</p>		<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・寮室のバルコニー側開口部を大きく取ることで、日光の利用を積極的に行った。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・耐用性、信頼性において耐震性能を耐震等級3を満たす計画とすることで、地震時の建物への影響に配慮した</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地西側に面して流れる河川に沿って、緑地帯を設けることにより、河川に隣接する緑地を配置した</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・建物外皮の熱負荷抑制において、断熱性能等級4を満たすように、断熱性に配慮した</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・グリーン調達品目を2品目採用する計画とし、資源の有効利用に配慮した</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・建物を敷地中央に配置することで、周辺建物より離れるように計画し、風が回復するように配慮した</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される